

②行動のABC♪

さて、子どもの行動を「具体的」に見ることができましたか？

次に、「行動の ABC」という行動の観察方法についてお教えします。子どもと毎日接していると、ついつい子どもの行動だけに注目してしまいがちです。しかし、行動は突然生じているのではなく、「**行動の前に起こったこと**」「**行動の後に起こったこと**」が必ずあるはずです。

例えば、「大声を出す」という行動の前には「お気に入りのおもちゃをお友達に取られた」という状況があり、大声を出した後には「おもちゃを返してもらった」という結果があるかもしれません。「行動の前に起こったこと (A)」「行動の後に起こったこと (C)」は、英語の頭文字をそれぞれとって『行動の ABC』と呼ばれ、以下のように書くことができます。

行動の前に起こったこと (A)	行動 (B)	行動の後に起こったこと (C)
お気に入りのおもちゃをお友達に取られた	大声を出す	おもちゃを返してもらった

このように行動の ABC を書いてみると「大声を出したのは、おもちゃを返してほしかったからかな？」と考えることができます。



では、次の2つの例を見てみましょう。

みなこ先生は、朝の遊びの時間に、ケンくんが背中を蹴ってくることに悩んでいます。抱っこしてあげたり、怒ってみたり・・・色々としてみましたが、なかなかおさまりません。そこで、ゆき先生のアドバイスに従って、『行動の ABC』のメモを取ってみることにしました。子どもたちが帰った後、メモをじっくり見てみると、以下のようなパターンが多いことが分かってきました。

行動の前に起こったこと (A)	行動 (B)	行動の後に起こったこと (C)
みなこ先生が背中を向け、他のお友達とお話している	後ろからみなこ先生の背中を蹴る	みなこ先生が振り向いて「どうしたの？」と言う

「なるほど～、もしかしたらケンくんは構ってほしかったのかも・・・」「蹴らずに“先生、一緒にあそぼ”って一言言ってくれたらいいのになぁ・・・」「あ、もしかしたらそういう言葉を知らないのかも・・・」と久しぶりに頭がスッキリ！まとまってきました。「明日からは、“一緒にあそぼ”って言葉を教えてあげよう」「蹴られたときには返事をしないでおことう」と考えることができ、問題は無事に解決しました。

しずかちゃんはお友達とのトラブルが多く、なつみ先生はいつもケンカの仲裁に追われています。といっても、ケンカがなぜ起こったのかは見ていないことが多く、気付いたらお友達が「先生！しずかちゃんが叩いた！」と言いに来ます。しずかちゃんに直接聞いても興奮して説明できないことが多く、いつもお友達の話だけで決着をつけざるをえません。そこで、ある日ゆき先生のアドバイスにしたがって、遊びの時間にしずかちゃんの様子をそっと観察することにしました。メモを持って『行動のABC』をできるだけ書くようにしました。そうすると、やはりケンカといっても同じようなパターンがあることが分かりました。

行動の前に起こったこと (A)	行動 (B)	行動の後に起こったこと (C)
お友達に「今、ボール使ったらあかん時間やで」と指摘される	お友達を叩く	お友達が泣く、なつみ先生に言いに来る

「“お友達に何かを指摘された時”に言い返す代わりに叩いてるのかも」「しずかちゃんは言葉が遅いし、悔しいんだろうなあ」「“ボールを使ったらあかん時間”っていうルールは理解してたのかな？」など、しずかちゃんのことをより深く理解できました。「遊びの時間にメモを持って走り回った甲斐があったわ」となつみ先生は、観察の大切さを実感しました。

行動のABCは、発達が気になる子どもだけではなく、ヒトの様々な行動に当てはめることができます。行動を観察し、『行動のABC』を書いてみると、なぜ行動(B)が起きているのか、行動の理由が見えてきます。もちろん、その答えが間違っていることもあります。間違っていたら、もう1度観察すればよいのです。大切なことは、『行動のABC』を書くことで子どもの行動が明確に見えてくるということです。困った時は、メモを片手に『行動のABC』を記録してみましよう！何かが見えてくるはずですよ。



ルール②:『行動のABC』を書く

「行動の前に起こったこと」、「行動の後に起こったこと」を忘れずに！

